



ウヌマ地域総研 DX戦略

株式会社 ウヌマ地域総研

目次



- DX取組宣言
- 経営ビジョン
- DX戦略
- 戦略を効果的に進めるための体制
- 最新の情報処理技術を活用するための環境整備
- 戦略の達成状況に係る指標
- デジタル技術に係る課題把握
- 2 • サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施

DX取組宣言

自然災害が絶えない、むしろ激甚化・広域化してきている地球環境において、当社の商品は公共インフラストラクチャ（道路や上下水道、橋梁、堤防、ダムなど）を行政と共に守る技術であり、提案することにより社会貢献をしております。

技術の進歩により計測技術や各種構造計算、可視化技術は高速化・多様化しています。それらをトータルでマネジメントしていくことが当社の役割の一つです。

人口減少や担い手確保は首都圏と地方、あるいは業種を超えた奪い合いとなっている中、これらに抗うことは現実的ではありません。そこで当社は誰もが扱えるDX環境の構築による省人化でもって乗り越え、様々な課題を抱える地方都市において自立した技術サービスの提供を切れ目なく展開していくことを宣言します。

株式会社 ウヌマ地域総研 代表取締役 鵜沼順之

経営ビジョン

日本で建設コンサルタント業という業態が生まれて約70年経ち、当社は55年を迎えました。その間に主力技術商品は何度も変わってまいりました。また、国内では公共インフラがある程度整備された現在、新たに創るモノはほぼ無くなり、いかに低コストで維持していくか又は高付加価値化（移動時間短縮、環境に優しい下水処理等）に軸足が移りました。

人口減少に伴い交通量などの物理的な指標は減少傾向にある一方、取り扱うデータ量は3次元化等により指数関数的に増大しています。特にここ数年の技術革新によって世代間で扱う内容の格差は大きくなってきております。

特定の社員または個々の技術のデジタル環境改善のような部分最適化ではなく、多くの社員が共有できるシステム構築により、同一目線の全体最適化を目指します。

また、より先鋭的な個々のデジタル技術については当社の社員のみならず、より専門的なノウハウや設備を持つ再委託先の活用で財務負担と運用負担を大きくせずに新技術の知見を積み重ねていきます。

さらに自然災害が減らない環境下において災害対応は当社経営の柱の一つであり、これらに対応した設備投資を一層強化していきます。

DX戦略

【DX戦略1】BIM/CIM

1. 国・自治体のBIM/CIM原則適用を踏まえ、積極的に技術提案を行う。
2. BIM/CIM担当者拡大や外部講習参加等により、社内生産及び照査体制を強化する。
3. 大容量データの取扱いに対応したソフトウェア及びデバイス環境を整備する。

【DX戦略2】三次元計測・UAV

1. 国・自治体のBIM/CIM原則適用を踏まえ、現況三次元データ計測の提案を行う。
2. 現場状況・要求精度に応じた三次元計測機器を選定し、計測できる実施体制を強化する。
3. UAVの活用について、災害発生時など柔軟で迅速な対応を実現するため、操縦できる人員の拡大を図る。

DX戦略

【DX戦略3】リアルタイム経営

1. 営業戦略や利益率を可視化し、工種ごとの達成率に応じ方針を決定していく。
2. 各業務工程をリアルタイムで管理し、進捗率や工期の遅延等を可視化する。
3. 現場作業の多い事業部にタブレット端末またはスマホを配布し、どこからでもアクセスが可能な環境を作る。

【DX戦略4】業務効率化

1. 紙管理からデータ管理へ（車両点検、運転日報等）
2. 各業務において、業務のフロー及びマニュアル化を推進する。
3. デジタルツールを使用し残業時間や出退勤を自動化する。

DX戦略

【DX戦略5】IT人材の創出

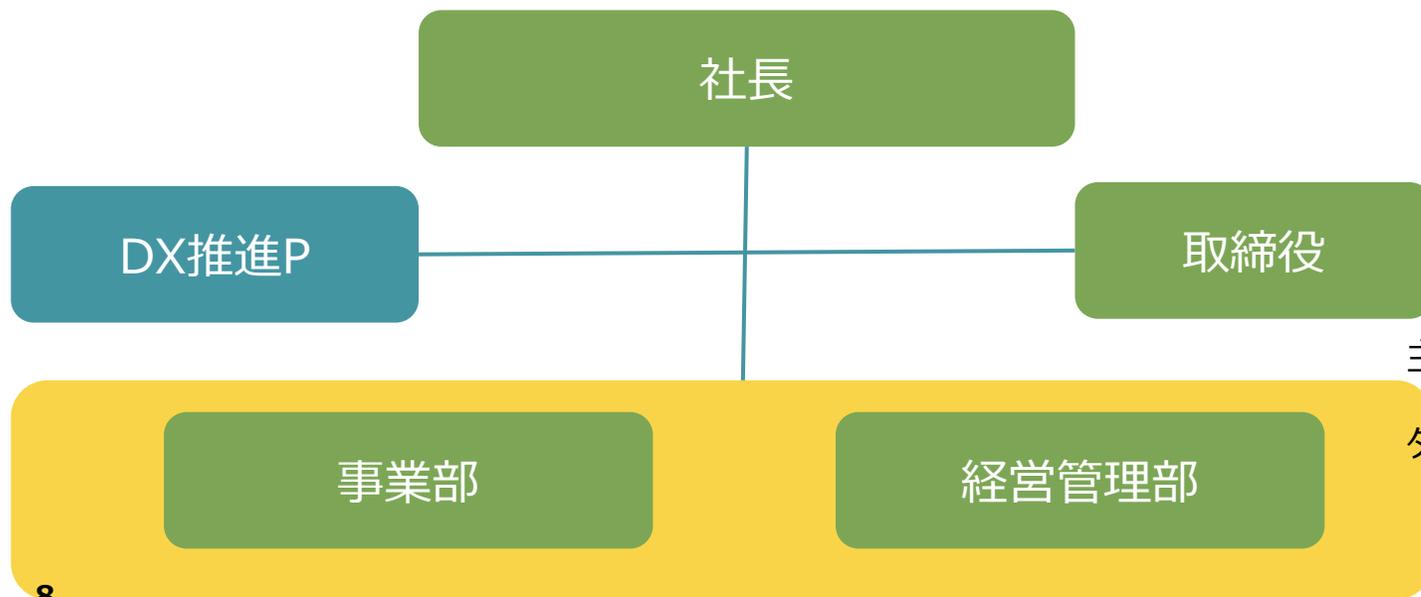
1. 社員教育プログラムを導入し、
社外・社内講習会を通じデジタルツールと技術のトレーニングを行う。
2. 社内コミュニケーションプラットフォームの導入や情報共有の促進を通じて、
情報アクセスとコラボレーション能力を向上させる。
3. DX大会を年1回開催し表彰することで
新しいアイデアの共有と社員のやる気へのアプローチを行う。

戦略を効果的に進めるための体制

【DX推進は会社全体取り組むべき課題である。

「DX推進プロジェクト」として、選出されたメンバーが主体となり、取り組んでいく。

メンバーのみならず、若手やベテラン合わせた会社全体としてDXを推進していく。



主体：係長、主任クラスから発信

ターゲット：→若手（主任未満）これから活用が必要

→ベテラン（課長以上）これまでの知識や経験の伝承

keyword 人手不足、時間的制約、経験不足、技術伝承

最新の情報処理技術を活用するための 環境整備

- 会社全体での効率化および業務成果の品質向上を図る。
→既存システムにとらわれない提案を適宜実施し、ネットワークの構築や新技術（システムなど）を取り入れ、みんなが利用しやすいデジタル環境の整備に取り組む。
- ①ハードの整備 → DX推進Pで発案、設備投資委員会で精査、取締役決裁により随時導入
- ②ソフトの整備 → 社員教育、活用によりデジタルリテラシーの向上

最新の情報処理技術を活用するための 環境整備

【具体案】

- ・ペーパーレス化の推進⇒電子ワークフロー、タブレット端末の活用
- ・BIM/CIMへの対応⇒ドローン活用、各種提案
- ・ネットワーク環境の強化と利便性の向上⇒Wi-Fiの導入、情報セキュリティに関する社員教育
- ・社員への会社用スマートフォンの配布⇒シームレスな連絡体制
- ・スマートフォン、タブレットを活用したマルチアプリの活用
- ・PCのスペック向上⇒DXに耐えられるハードへの投資
- ・フリーアドレスとノートPCの活用⇒コミュニケーションの活性化

戦略の達成状況に係る指標

5年後目標値（KPI）

【DX戦略1】BIMCIM

設計技術者全員が新入社員やCIM初級者に対し指導ができる

【DX戦略2】三次元計測・UAV

各チームに三次元計測ができるUAV操縦者を3名以上配置

【DX戦略3】リアルタイム経営

1人当たりの付加価値額を20%増加させる

戦略の達成状況に係る指標

5年後目標値（KPI）

【DX戦略4】業務効率化

1人当たりの月残業平均時間を10%削減（令和4、5年度：24.7時間→22.2時間へ）

【DX戦略5】IT人材の創出

- | | |
|-------------------|---|
| ・デジタル初級者5人（現在45人） | デジタル初級者（デジタルツール・データの基礎知識を有し使用する者） |
| ・デジタル中級者30人（現在0人） | デジタル中級者（デジタルツール・データを用いて基本的な問題解決ができる者） |
| ・デジタル上級者10人（現在0人） | デジタル上級者（デジタルツール・データを見直し、専門知識を持ち業務改善ができる者） |

戦略の達成状況に係る指標

項目	現在	1～2年後	3～4年後	5年後
DX戦略1：BIMCIM	<ul style="list-style-type: none"> ・BIM/CIM担当者が属人化している状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計技術者の1/2がモデリング作業あるいはモデリング照査ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計技術者全員がモデリング作業あるいはモデリング照査ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計技術者全員が新入社員やCIM初級者に対し指導ができる
DX戦略2：三次元計測・UAV	<ul style="list-style-type: none"> ・三次元計測・UAV担当者が属人化している状況 ・各チームに三次元計測ができるUAV操縦者が1名配置されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームに三次元計測ができるUAV操縦者を2名以上配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームのUAV操縦者が新入社員やUAV操縦初級者に指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームに三次元計測ができるUAV操縦者を3名以上配置
DX戦略3：リアルタイム経営	<ul style="list-style-type: none"> ・営業戦略：月1回の各部署内会議での情報展開のみ ・業務工程：週1の工程会議での情報展開のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムで可視化可能なツールを取り入れ、全社員がいつでも・どこでも閲覧することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 社員1人1人が可視化された営業戦略や業務工程を基に戦略練り直しや工程管理をすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 活用されていなかったデータを使用・可視化し新たな経営戦略を立てることができる

戦略の達成状況に係る指標

項目	現在	1～2年後	3～4年後	5年後
DX戦略4：業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> 紙出力、手書き記載が多く残っている状態 各業務フロー・マニュアルが作成されてはいるが活用されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 資料のPDF化、コピー用紙購入費5%削減（2024年度比） 新入社員入社時に業務フロー・マニュアルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 車両点検、運転日報、出勤簿等の手書き入力廃止 ルーティン作業に対しデジタルツールを使用 	<ul style="list-style-type: none"> コピー用紙購入費10%削減（2024年度比） デジタルツールを使用することにより付加価値の高い業務に注力
DX戦略5：IT人材の創出	全社員がデジタル初級者	<ul style="list-style-type: none"> 社員の30%がデジタル中級者 各部2～3名に対し年1回以上DX社外講習会を受講し、社員に情報展開 	<ul style="list-style-type: none"> 社員の50%がデジタル中級者 DX大会を年1回開催し、案を採用し実施 	<ul style="list-style-type: none"> 社員の20%がデジタル上級者 新入社員やデジタル初級者に対しDX社内講習会が実施できる

デジタル初級者（デジタルツール・データの基礎知識を有し使用する者）

デジタル中級者（デジタルツール・データを用いて基本的な問題解決ができる者）

デジタル上級者（デジタルツール・データを見直し、専門知識を持ち業務改善ができる者）

デジタル技術に係る課題把握

推進指標を用いた課題把握結果：「DX推進指標」自己診断フォーマットver2.3にて自己診断を行い、2023年4月7日にIPAの自己診断結果入力サイトより提出済みです。

受付番号：202304AH00001848

サイバーセキュリティに関する対策の 的確な策定及び実施

Security Actionの二つ星宣言を実施し、
その旨を自社ホームページに公表（2025年2月3日）



セキュリティ対策自己宣言



ありがとうございました

株式会社 ウヌマ地域総研
DX推進プロジェクト